

## 平成 29 年度第 4 回常務理事会議事録

日 時： 平成 30 年 1 月 12 日（金） 15：00～16：55

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室：

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、榎本 隆之、岡本 愛光、加藤 聖子、北脇 城、吉川 史隆、  
竹下 俊行

監 事：岩下 光利、櫻木 範明

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

顧 問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：工藤 美樹、生水 真紀夫、千石 一雄、村上 節、山田 秀人

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司、田村 秀子

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹 事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、木村 文則、  
桑原 章、桑原 慶充、佐藤 美紀子、澤田 守男、関根 正幸、寺尾 泰久、

西ヶ谷 順子、西郡 秀和、馬場 長、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭  
事務局：青野 秀雄、吉田 隆人

15：00 理事長、副理事長、常務理事の全員（11名）が出席し、定足数に達しているため、藤井知行理事長が開会を宣言した。議事録署名人には、理事長、監事の計3名を選任し、これを承認した。続いて、昨年11月28日に確定した平成29年度第3回常務理事会議事録を確認した。

### I. 業務担当常務理事報告

#### 1) 総 務（青木大輔理事）

##### 〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

①八田賢明功労会員（千葉）が11月26日にご逝去された。（12月7日に報告受領）

②岡井崇名誉会員（東京）が12月21日にご逝去された。（1月21日に告別式を開催）

##### (2) 平成30年度臨時総会議事次第について

[資料：総務1]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

##### (3) 第70回学術講演会におけるビジネスミーティングについて

[資料：総務2]

##### (4) 平成30年度臨時総会 総会資料作成スケジュールについて

[資料：総務3]

(5) 二本松市長から、「本会に来訪して地方における出産医療の方向性に係る助言を受けたい」との依頼があり、1月16日に青木大輔理事が面談することとなった。

[資料：総務3-1]

**青木大輔理事**「平成 25 年 10 月にも同二本松市長から同様の要望書を受領し、その際にも面談の上、改めて本会として回答をしている。基本的な考え方は当時と変わっていないが、福島県への産婦人科医派遣プロジェクトは既に終了しており、学会として特定地域に肩入れすることは難しいとの趣旨で面談に応じるつもりである。」

本件につき特に異論なく、青木先生に対応をお願いすることとなった。

#### (6) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①東京女子医科大学の廣島健三先生から、約 1 年後に出版予定（来年 1 月執筆開始）である「中皮腫瘍取扱い規約」（石綿・中皮腫研究会/JMIG 研究会日本中皮腫研究機構）の後援申請を受領した。経済的負担なく、これを応諾したい。 [資料：総務 4]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

②HPVワクチン薬害訴訟全国原告団・弁護団から、12 月 9 日付本会声明の撤回と、副反応被害者のヒアリングを求める要望書を受領した。 [資料：総務 5, 5-1, 5-2, 5-3]

**青木大輔理事**「本件については、平岩弁護士にも相談の上で回答書を作成した。」

**榎本隆之理事**「2 月 3 日の公開討論会で予想される同様の議論に備える意味もあり、ロングバージョンの回答（資料 5-2）を作成した。本件についてはショートバージョンの回答（資料 5-1）で回答したい。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会

①第 2 回理事会で承認されたフィブリノゲン適応外使用の要望書を、本会、日本輸血・細胞治療学会、日本心臓血管外科学会と共同で再度、厚生労働省に提出したい。 [資料：総務 5-4]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

②関係 8 学会から委員を出して組成した、成人先天性心疾患の横断的検討委員会がとりまとめを行い、第 3 回理事会で承認された、「先天性心疾患の成人への移行医療に関する提言」について、同委員会から本提言を本会ホームページに掲載してほしいとの依頼があった。

[資料：総務 5-5]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン 2017 頒布状況

12 月 27 日現在、書籍版 2, 203 冊、電子版用 ID・PW 付 395 冊（内、電子版ダウンロード 213 件）

- ②低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬ガイドライン 2015 頒布状況  
12月27日現在4,838冊。

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

- ①厚生労働省母子保健課より、「母子健康手帳の任意記載事項様式改正」について本会会員への周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務6,6-1]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- ②厚生労働省母子保健課より、「新生児聴覚検査の実施について」の一部改正について本会会員に対しての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務6-2,6-3]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

### (2) 環境省

環境省実施の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の広報業務を担当である一般社団法人環境情報科学センターから、第7回エコチル調査シンポジウム(2018年2月10日、日本科学未来館)の告知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。

[資料：総務7]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会、日本医学会連合

- ①日本医学会を通して、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課ならびに血液対策課より、「人血小板濃厚液の使用時の安全確保措置」の周知徹底についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務8]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- ②日本医学会を通して、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長より、エボロクマグ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改正について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務9]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- ③日本医学会を通して、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長より、ベムブロリズマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドラインの追加・一部改正について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務9-1]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- ④日本医学会連合から、「平成29年度日本医学会連合加盟学会連絡協議会」(H30年2月23日開催)における演者1名の推薦依頼があり、本会から苛原稔先生を推薦した。 [資料：総務9-2]

(2) 日本癌治療学会

日本癌治療学会から、同学会の領域横断的癌取扱い規約検討委員会委員として本会から参加いただいていた片渕秀隆先生が任期満了となることに伴い、継続或いは後任の推薦依頼を受領した。

[資料：総務10]

**青木大輔理事**「同じ依頼が日本婦人科腫瘍学会にも届いており、日本婦人科腫瘍学会の八重樫伸生理事長と相談し、後任は両学会に関わって頂いている三上幹男先生を推薦したいと考えている。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

**青木大輔理事**「資料は間に合わなかったが、日本癌治療学会から本会と日本婦人科腫瘍学会宛に、がん診療ガイドライン統括・連絡委員会婦人科領域担当委員、協力委員及び評価委員についての推薦依頼を受領した。婦人科腫瘍学会の榎本隆之委員長、日本婦人科腫瘍学会の八重樫伸生理事長と相談した結果、以下の先生方を推薦することで承認頂きたい。」

〈子宮頸癌〉

委員：三上幹男先生

協力委員：戸板孝文先生、村松俊成先生、川名敬先生

評価委員：万代昌紀先生

〈子宮体がん〉

専門委員：永瀬智先生

協力委員：伊藤潔先生、山上亘先生、片渕秀隆先生

評価委員：吉野潔先生

〈卵巣がん〉

委員：岡本愛光先生

協力委員：佐藤豊実先生、田畑務先生、京哲先生

評価委員：田代浩徳先生

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(3) 日本助産学会

日本助産学会から「日本助産学会 助産用語集(案)」への意見依頼を受領した。本会は現在、産科婦人科用語集・用語解説集第4版を改定中であり、これとの照合を短時間で言うことは難いため、本会としてのコメントは出さないこととした。 [資料：総務11]

(4) 日本臨床検査医学会

日本臨床検査医学会から、「ゲノム医療における検体検査の品質確保に関する提言」について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料：総務11-1]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

#### 〔IV. その他〕

- (1) 松竹映画「8年越しの花嫁」の試写会が12月11日に開催され、本会から宮城悦子特任理事が女性の健康について、20分ほどの講演を行った。試写会参加者からは17,384円の寄附を頂いた。

[資料:総務12]

- (2) 大阪がん生殖ネットワークから、がん治療による妊孕性や生殖機能の影響に関する情報を共有・発信するために、大阪国際がんセンター内のがん対策センターホームページに新たに作成する同ネットワークのバナーへのリンク依頼を受領した。

[資料:総務13]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

#### 2) 会 計 (吉川史隆理事)

- (1) 平成30年度各部署・委員会予算の一次査定について [資料:会計1]

吉川史隆理事「査定に関しては理事長と慎重に検討した。その結果、申請額より削られた委員会もあるが、再度この予算内に収めるべくご検討頂きたい。総額では1.3億円となり、このままでは赤字予算になってしまう水準である。節約により一層の協力をお願いする。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

#### 3) 学 術 (木村正副理事長)

- (1) 学術委員会

- (イ) 会議開催

第4回学術委員会、第4回学術担当理事会	3月2日【予定】
---------------------	----------

- (ロ) 他団体特別賞推薦について

平成29年度神澤医学賞に上田豊先生が受賞者に決定した旨、神澤医学研究振興財団から通知を受領した。

- (2) プログラム委員会関連

- (イ) 第70回学術講演会プログラム委員会

八重樫伸生第70回学術集会長「準備は概ね順調に進んでいる。」

- (ロ) 第71回学術講演会プログラム委員会

特別講演演者選考委員会	1月12日
シンポジウム演者選考委員会、プログラム委員会	2月9日【予定】

- (ハ) 第72回学術講演会プログラム委員会

第71回プログラム委員会委員を選出。第1回プログラム委員会は2月7日に開催する。

[資料:プログラム委員会1]

- (ニ) 学術講演会専用アプリの開発について

本会専用アプリとして登録するに当たり、第70回からマイス・ワンとの複数年契約が必要となる。

[資料:プログラム委員会2]

八重樫伸生第70回学術集会長「今後もアプリの活用を続けるにあたり、使い勝手を考えると本会専用アプリを開発し、ブラッシュアップしていくことが望ましい。他学会でも活用しているが、ランション等の予約も可能であり、使い勝手は良いとの印象である。」

藤井知行理事長「費用はいくら位か。」

八重樫伸生第70回学術集会長「当初開発予算は、250万～300万円。そこからのディスカウントを交渉中である。」

藤井知行理事長「今後の学術集会でも活用出来るということであれば、良いのではないか。」

苛原稔理事「生殖のようなサブスペシャリティでも使えることを検討頂けると有難い。」

専用アプリ開発について特に異論なく、全会一致で承認された。

#### 4) 編集 (加藤聖子理事)

##### (1) 会議開催

和文誌編集会議・JOGR 全体編集会議	1月12日
---------------------	-------

##### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2017年投稿分 (12月21日現在)

投稿数	1,457
Accept	148
Reject	921
Withdrawn/Unsubmitted	135
Under revision	24
Under review (審査中)	227
Expired	2

加藤聖子理事「12月31日時点での投稿数が判明し、1年間で1,487本であった。年々少しずつ増えている。」

##### (3) 転載許諾と転載利用料に関して関連委員会と調整の上、学会として統一した方針で進めたい。

加藤聖子理事「本件は、教育委員会とも話し合った上で、総務にお願いしたいと考えている。」

##### (4) 機関誌との同梱に関する申請書ならびに内規 (案) [資料：編集1]

内規 (案) については特に異論なく、全会一致で承認された。

藤井知行理事長「同梱料を頂いてもよいのではないか。」

加藤聖子理事「では、金額についての詳細を今後検討し、次回常務理事会に諮りたい。」

##### (5) JOGR Best レビューアー賞について

加藤聖子理事「本日開催した和文誌編集会議でベストレビューアー賞3名を選出した。次回常務理事会に資料として報告する。また、5月の学術集会の情報交換会の場で表彰する予定である。」

## 5) 渉外 (岡本愛光理事)

[会議開催] 予定なし

[FIGO 関連]

(1) XXII FIGO World Congress 2018 (10月14～19日、於：ブラジル リオデジャネイロ)について、各加盟学会会長の登録費免除、および” Member Village”の無料ブースが提供される。

[資料：渉外1]

(2) FIGO 2018 Fellowship Program への寄附について

[資料：渉外2]

**岡本愛光委員長**「今回(リオ開催)のプログラムでは一人頭の費用が約USD1,400との試算を出しており、寄附を募ってきた。2012年(ローマ開催)、2014年(バンクーバー開催)に寄附の依頼はなかったが、2010年(ケープタウン開催)にはUSD10,000を寄附した経緯がある。今回は2人分(USD2,800)程度を考えているが、いかがなものか。」

**藤井知行理事長**「本件は予算に組んでおらず、本会としても財政厳しい折、出さなければいけないものなのか。」

**木村正副理事長**「今回はリオ開催だが、ブラジルでは企業の寄附が少ないとの事情があるのではないかとと思われる。理事会での付き合いもあり、予算との兼ね合いもあるが、多少のお付き合いをすることでよいのではないか。」

**藤井知行理事長**「全体の予算範囲内でご検討を願いたい。」

[AOF OG 関連]

2019年マニラで開催のAOF OG CongressにてFellowship表彰が予定されていた岡井崇名誉会員のご逝去についてAOF OGに通知した。

**藤井知行理事長**「AOF OGの意向は、ご本人がお亡くなりの場合にはご家族の方に授与したいとの事であり、改めてご家族のお考えを確認する。」

[日韓台関連]

TAOG President Prof. Tsung-Cheng Kuoより、ご自身で描かれた絵画のカレンダーを頂いた。

## 6) 社保 (北脇城理事)

(1) 会議開催

第3回社会保険委員会
------------

2月9日【予定】
----------

(2)平成 30 年度診療報酬改定に向け、厚生労働省保険局医療課よりロボット支援下手術に関する問い合わせを受け、婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 万代昌紀委員長を中心に検討し回答した。

(3)厚生労働省母子保健課より妊産婦のメンタルヘルスの精神科共同管理の外来管理加算に関する問い合わせを受け、これに回答した。

(4)コスメゲン静注用 0.5 mgの安定供給継続に関する要望書提出について [資料：社保 1, 1-1] 北脇城理事「平成 27 年 6 月に同要望書を提出しているが、平成 30 年度薬価改定（不採算品再算定適用申請）に向け、本会から厚生労働省に対する要望書の再提出依頼をノーベルファーマ株式会社から受領した。本会としては、あくまでも本剤の重要性に鑑み、今後も安定供給を求めるという内容の要望書を作成した。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

## 7) 専門医制度（八重樫伸生副理事長）

### (1) 会議開催

第 4 回中央委員会、研修委員会	1 月 27 日【予定】
------------------	--------------

### (2) 日本専門医機構

#### ①会議開催

平成 29 年度第 5 回専門医認定・甲信部門委員会、基本領域専門医委員会／合同委員会	12 月 15 日
---	-----------

②12月15日付で各プログラム統括責任者宛に2018年度専門研修プログラムの専攻医一次登録者数を踏まえた通知を発送した。 [資料：専門医1]

藤井知行理事長「5都県の登録者だけが増えているという事実がある。5都県の大きな施設の先生方は、是非とも地方へのローテーション人数を増やすことに協力をお願いします。」

岩下光利監事「東京都の場合、東京枠で採用した場合は、都内施設で研修しないといけないとの規定になっている。そうすると、この専門医制度の基準に抵触することになるのか。」

藤井知行理事長「本会では、その地域の定員を回すとの考えで地域研修が義務付けられているが、機構は地方研修を義務付けておらず、配慮しろという努力目標でしかない。よって抵触することにはならない。しかし、地域枠ではない専門医の先生については地方に回して頂きたい。」

③2018年度専門研修プログラムの専攻医二次登録について機構から連絡があった。 [資料：専門医2]

④2017年度機構専門医更新申請の合格者への専門医認定証・英文認定証（英文は希望者のみ）のサンプルについて機構から連絡があった。 [資料：専門医3]

藤井知行理事長「認定書の称号が”産婦人科専門医”となっているが、”基本領域産婦人科専門医”に変えることになったはずではないか。」

青木大輔理事「英語名も公表されていた気がする。」

八重樫伸生副理事長「2点につき機構に確認する。」

⑤機構専門医更新基準の機構ウェブサイト掲載依頼について [資料：専門医4]

⑥機構専門医更新基準 指導医講習会の取り扱いについて

2017年度まで指導医講習会の項目は「専門医共通講習」であるが、2018年度（2018年4月1日以降）は「産婦人科領域講習」に項目が変更になると機構から通知があった。 [資料：専門医5]

## 8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成 29 年 11 月 11 日）

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：72 研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：604 施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：604 施設

④顕微授精に関する登録：565 施設

⑤医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）及び卵巣組織の凍結・保存に関する登録：87 施設

⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

12 月 25 日現在申請 697 例 [承認 604 例、非承認 17 例、審査対象外 36 例、取り下げ 5 例、照会 27 例、保留 6 例、審査中 2 例] (承認 604 例のうち 27 例は条件付)

(3) 臨床研究審査小委員会報告事項

①国立大学法人宮崎大学 池ノ上 克会員より、日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった、「脳性麻痺発症および再発防止に関する症例対照研究」について、12 月 14 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 1]

②順天堂大学 黒田 恵司会員より、日本産科婦人科学会生殖登録データベース使用申請があった、「体外受精における経膈超音波下採卵時の合併症発症頻度とリスク要因に関する後方視的検討」について、12 月 21 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 2]

③福島県立医科大学ふくしま子ども女性医療支援センター 高橋 俊文会員より、日本産科婦人科学会生殖登録データベース使用申請があった、「生殖補助医療における完全受精障害の発生率に関する研究」について審査を行った。

④福島県立医科大学ふくしま子ども女性医療支援センター 高橋 俊文会員より、日本産科婦人科学会生殖登録データベース使用申請があった、「東日本大震災が生殖補助医療の治療成績に与える影響に関する研究」について審査を行った。

(4) 会議開催

平成 29 年度第 4 回着床前診断に関する審査小委員会	1 月 22 日【予定】
平成 29 年度第 4 回倫理委員会	2 月 13 日【予定】

苛原稔理事「報告事項として 2 点お伝えする。①内閣府中心に、胚の取扱いに関する指針作成に向けて検討が進んでいる。厚生労働省から、現在までにヒト精子・卵子・受精卵研究の登録をした内容につき全体総数を出して欲しいとの要望があり、対応したい。②現在、NIPT の見解につき見直しを考えている。可能であれば今年 6 月を目途に考えている。また、先日 NIPT に関する今後の進め方について、日本医学会と打合せの機会を持ったので、概要を報告する。日本医学会からは、門田守人会長、飯野正光副会長、福島義光先生、本会からは藤井知行理事長、久具宏司小委員長、私が参加した。現在続けている臨床研究を終了し、次のステップに進むことにご賛同頂いた。仕組みについては本会主導で考えることになる。

現行の規則を変更することを考えているが、4 月～6 月を目途に進める予定である。」

小西郁生顧問「NIPT について、次の段階に進む準備をしている段階だが、各方面ご理解頂いており、順調にいくと考えている。厚生労働省の班研究も 2 期目に入っており、教材を作成しようと作業を進めている。」

9) 教育 (竹下俊行理事)

(1) 会議開催

専門医認定試験問題作成委員会(女性医学)	12 月 22 日
専門医認定試験問題作成委員会	12 月 23 日
用語集・用語解説集コアメンバー会議	1 月 6 日
IWJF 打合せ会	1 月 12 日

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS 版並びに Android 版タブレット端末専用) : 12 月 27 日現在

用語集単体	243
必修知識 2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	ダウンロード 814

書籍版 : 12 月 27 日現在

	入金済み (冊)
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	849
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	459
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	515
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	672
産婦人科研修の必修知識 2013	3, 159
用語集・用語解説集改訂第 3 版	3, 296
若手のための産婦人科プラクティス【販売中止】	3, 267
専門医試験例題と解説 2014	1, 221
専門医試験例題と解説 2015	1, 106
専門医試験例題と解説 2016	326
専門医試験例題と解説 2017	620

(3) 学会発刊書籍の転載に関して、編集担当理事会ならびに広報委員会ともすりあわせを行い、学会として統一した考えのもとに進めたい。

(4) 日本医学会用語委員会

竹下俊行教育委員会委員長が12月22日開催の同委員会に本会委員として出席した。

(5) 用語集・用語解説集第4版について

2018年5月開催第70回日本産科婦人科学会学術講演会において、頒布を開始する予定である。今後は専門医認定試験問題の中に用語に関する事項も組み込み、よりいっそう広く会員に利用される用語集・用語解説集となるようにしたい。

(6) 杏林舎による発刊書籍電子版プロモーションDVD

本会発刊書籍の電子版の利用は徐々に上がってきているか、特に、用語集・用語解説集の電子版を購入されると他の書籍とのリンク(解説のポップアップ)などができるので、宣伝も兼ねてプロモーションDVD作成を杏林舎に依頼した。作成経費は杏林舎負担であり、八重樫伸生第70回学術集会長の厚意により学術講演会の幕間などで放映する予定である。

10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会 (榎本隆之委員長)

(1) 会議開催

第3回広報委員会	2月9日【予定】
----------	----------

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について

[資料：広報2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について

[資料：広報3]

(5) 本会 HP リニューアルについて

本会 HP リニューアルについて、制作業者として株式会社杏林舎に発注した。

榎本隆之委員長「今年8月1日に新サイトを公開できる予定である。」

(6) ウェブアーカイブについて

スタンフォード大学図書館から、本会のサイトをウェブアーカイブ・コレクションに加える事になったとの通知を受領した。一般公開は約半年後の予定。 [資料：広報4]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(7)HUMAN+およびBaby+について

アプリ版Baby+が今年4月より全国的にリリースされることに先駆け、2月12日(月・祝)渋谷ヒカリエに於いてPRイベントを開催する予定。 [資料：広報5]

**梶山広明副幹事長**「4月にWeb版がなくなり、アプリ版に移行するということである。」

**藤井知行理事長**「今後は、コンテンツに対してFeeを頂くことも検討し、交渉したい。」

## 2) 震災対策・復興委員会 (村上節委員長)

### (1)「大規模災害対策情報システム」の各都道府県に対する周知について

各都道府県知事あてに、第7次医療計画で本会の大規模震災対策情報システムを活用するよう要望書を提出した。要望書を受け、問い合わせのあった各都道府県にはID付与し、全国の地方連絡委員には当該自治体への働きかけを要請した。現在のところ、自治体へのID配布状況は以下の13県である。

静岡、滋賀、福井、高知、熊本、埼玉、石川、福島、徳島、広島、愛知、愛媛、宮城

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

### (2)「大規模災害対策情報システム」の地方学会事務局に対する周知について 各地方学会長あてに、本会の大規模震災対策情報システムを活用するよう地方学会事務局へのID取得の要望書を提出した。現在のところ、以下の32地方学会事務局へIDを付与した。

宮城、秋田、山形、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟、石川、福井、岐阜、愛知、三重、滋賀、大阪、兵庫、和歌山、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄

### (3)平成29年度厚労科研より「災害時小児・周産期医療対策の構築と認知向上についての研究」において、新生児領域及び小児関連領域の研究分担者が進めている検討状況の進捗報告及び、「大規模災害対策情報システム」における今後の研究計画承認の依頼を受領した。新生児・小児科の情報合併に伴い、また広域災害をカバーするためにも入力画面の改修を行いたい。なお、開発経費は研究班の負担となる。

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

**藤井知行理事長**「震災対策・復興委員会というネーミングだが、災害対策・復興委員会に変えたい。」

**村上節委員長**「次回理事会に諮ることにする。」

## 3) 診療ガイドライン運営委員会 (工藤美樹学会側調整役)

### (1)学会・医会調整役と産科編と婦人科外来編の委員長による打合せを12月20日に開催し、ガイドラインに関するアンケート(案)を作成した。 [資料：ガイドライン1]

～学会雑誌ならびに医会報2月号との同梱を予定している。

**工藤美樹学会側調整役**「今回のアンケートは項目を絞り、出来るだけシンプルな質問にした。」

本件につき、質問の文言について多少の意見が出たが、特に異論はなく全会一致で承認された。

〈産婦人科診療ガイドライン産科編・婦人科外来編次版に関して〉

診療ガイドライン産科編・婦人科外来編について、既に次版に向けて作成委員会で作業を進めているが、事務局負担軽減も含め、2020年版については2019年12月までに校了し、2020年2月印刷開始までに万一必要な修正が入った場合には対応する方針としたい。

(2) 産科編委員会（板倉敦夫委員長）

① 会議開催 予定なし

② 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」頒布状況について（12月27日現在）

書籍版：10,578冊

書籍版+ID/PW付き：1,726冊

電子版ダウンロード：1,621件

③ 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」（残数約1,000部）の増刷について

工藤美樹学会側調整役「費用を考えると今回8,000部増刷したいと考えるが、まず5,000部増刷し、2019年度に改めて状況を見て、必要であればその時点で更に増刷するという慎重な考えもある。」  
藤井知行理事長「在庫との兼ね合いだが、2014年版の時の状況も鑑みて決めて頂きたい。」

(3) 産科編評価委員会（田中守委員長） 特になし

(4) 婦人科外来編委員会（小林浩委員長）

① 会議開催

第2回委員会	12月22日【済】
--------	-----------

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2017」頒布状況について（12月27日現在）

書籍版：6,734冊

書籍版+ID/PW付き：1,420冊

電子版ダウンロード：1,391件

(5) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長） 特になし

4) コンプライアンス委員会（山田秀人委員長）

(1) 役員等を対象とした利益相反自己申告書提出依頼を行った。今回の対象とする期間は、2014年4月1日より2017年3月31日までの3年間で、316名の委員の先生方+事務局11名が対象者となり、1月11日までに全対象者より提出頂いた。

(2) (1)の利益相反自己申告事項を、各ガイドライン委員会委員長に開示した。

5) 医療改革委員会（海野信也委員長）

(1) 会議開催

1月21日（日）に平成29年度拡大医療改革委員会 兼 産婦人科医療改革公開フォーラムを開催する予定である。 [資料：医療改革1]

海野信也委員長「資料にある議事次第の通り、講師はバラエティに富んだ豪華な顔ぶれとなった。マ

スコミに対しても通知していきたい。」

藤井知行理事「積極的な参加をお願いしたい。各大学から少なくともお一人は参加して欲しい。」

## 6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会 (千石一雄委員長)

(1) 会議開催 予定なし

(2) 第70回学術講演会男女共同参画・ワークライフ改善委員会と産婦人科未来委員会共同企画：  
テーマ～「今の時代の働き方 医師が辞めないチームをつくる」

2月発刊の抄録集に掲載するプログラム(チラシ)を作成。

講演では、産婦人科医療の現状分析と働き方改革による影響と「辞めさせない」ための方法について学んでもらう。ワークショップでは「医師が辞めないチーム」にするために、実践につながる具体的な手法を身につける。 [資料：男女共同1]

## 7) 産婦人科未来委員会 (生水真紀夫委員長)

(1) 会議開催

スプリングフォーラム打合せ会	2月23日【予定】
サマースクール、POP2打合せ会	3月23日【予定】

(2) 第8回産婦人科スプリングフォーラムについて

会 期：2018年3月10日(土) 正午現地集合 11日(日) 13時解散予定

場 所：淡路夢舞台国際会議場、ウエスティンホテル淡路

募集人数：70名

募集期間：2017年12月15日～2018年1月19日

応募方法：Google Forms (<https://goo.gl/FfmD4w>)

生水真紀夫委員長「例年との違いは、募集対象を卒後6年目～14年目まで55名程度、卒後15年目以降を15名程度としている点。しかし、現在のところ応募者は目標数に達していない。是非、積極的な推進(誘致)をお願いしたい。」

藤井知行理事長「是非とも積極的な応募をお願いしたい。」

(3) 第2回POPについて

募集方法やプログラム内容に関してメーリングリストを使用して、検討を進めている。

(4) 各連合学会開催プロジェクトPlus One 補助金に関して平成30年度より上記補助金について支出しないことの周知文書を、地方部会長宛に送付した。

加藤聖子理事「補助金が無くなる理由は何であったか。」

藤井知行理事長「各連合学会の開催負担に配慮し、主催を各連合学会から本会のPOP2に切り替えたということである。」

(5) 第12回産婦人科サマースクールについて

若手実行委員の公募は、2月5日～19日を予定している。

## 8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

(1) 会議開催 予定なし

(2) 丸の内キャリア塾 女性の健康週間広告特集を2月5日（月）～8日（木）まで毎日1ページずつ日本経済新聞夕刊全国版（発行部数：約181万9千部（電子版含む））に掲載の予定である。

(3) 丸の内キャリア塾スペシャルセミナー「女性の健康週間に学ぶ～意外に知らないカラダのこと」について。 [資料：女性活躍1]

(4) 地方学会担当市民公開講座について。 [資料：女性活躍2]

**大須賀穰委員長**「前回常務理事会で承認頂いた『女性の健康・活躍を支援するための活動推進の要望書』を、1月22日に野田聖子女性活躍大臣に届ける予定である。」

## 9) 医療安全推進委員会（村上節委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成29年11月末時点での医療事故調査制度の現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

(2) 日本医療安全調査機構より1事例のセンター調査について、関東甲信越ブロックから個別調査員として審議に協力いただける先生2名の推薦依頼を受領した。  
本会の個別調査部会部会員より、昭和大学医学部産婦人科の関沢明彦先生と、東條ウィメンズホスピタルの高橋恒男先生を推薦した。

(3) 日本医療安全調査機構臨時社員総会が、平成29年12月27日（水）世界貿易センタービルに於いて開催され、理事長代理として佐藤美紀子主務幹事が出席した。同機構が発行した冊子「医療事故再発防止に向けた提言第2号急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析」が報告事項の資料として配布された。 [資料：医療安全（無番）]

**佐藤美紀子幹事**「医療安全機構では毎年テーマを決め、死亡事例を分析した上で再発防止に向けた提言を出している。今年度のテーマは急性肺血栓塞栓症であり、産婦人科に関わることでもあるので、資料として回付させて頂いた。」

## 10) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長） 特になし

## 11) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長）

(1) 健やか親子21推進協議会テーマ4調査研究担当から、「子どもの自殺防止のための施策に関するアンケート調査」の依頼を受領したので、これに回答した。 [資料：児童虐待防止1]

### Ⅲ. その他

#### (1) 無痛分娩事故特別研究班

**海野信也特任理事**「無痛分娩事故の特別研究班で考えている今後の方向性について情報共有する。まずは、無痛分娩の実施施設でのやり方、そこでの専門医等について情報公開して頂きたい。情報公開している施設を登録してもらい、データベースで社会に提供していくことを考えている。

日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会 日本産科麻酔学会 日本麻酔科学会でワーキンググループを組成して、実際の進め方を決めていくという流れになる。今後、各学会に対して働きかけることになるが、本会にもワーキンググループへの協力を依頼することになる。来月の常務理事会で検討いただく事になる。」

#### (2) 市民公開講座「HPV ワクチンの今後を考える」について

**吉村泰典顧問**「こういった公開講座を開催することは、学会として素晴らしいことであり、内容も非常に良い。しかし、子宮頸がんワクチン問題の難しさは、マスコミが全く動いていないという点である。我々の考え方と、世の中が持っている考えは全く違うということをよく理解した上で臨むことが重要である。今回の目的は、まだ中立であるかもしれないマスコミに対し、いかにして我々が主張する科学的エビデンスを理解してもらえるかである。今回の公開講座は、今後の子宮頸がんワクチンがどうなるかを左右する、非常に重要な役割を持っている。」

**木村正副理事長**「マスコミに働きかけるに当たり、科学的エビデンスばかりでなく、子宮頸がんの悲惨さを訴えることも必要ではないかと考える。」

以上